

RITA JUKU MIYAZAKI

“ ありがとうございます 稲盛塾長 ”

「盛和塾での学びを語り、稲盛塾長を偲ぶ」

2022年9月6日(火)

会場:ホテルメリージュ宮崎3階「鳳凰」

- 17:00 開 会
事務局より本日の会式の趣旨・配布資料・式次第の説明
- 17:10 DVD 視聴
塾長講話「なぜ経営に哲学が必要か」<60分>
- 18:10 会長挨拶:稲盛塾長への弔意と感謝の言葉
RITA JUKU MIYAZAKI 会長 江夏 拓三
- 18:30 DVD 視聴
「心を高める経営を伸ばす～稲盛塾長と歩んだ36年」<30分>
- 19:00 盛和塾での学びとフィロソフィ経営の実践を語る
株式会社新海屋 代表取締役 小川 裕介
合名会社徳永商店 代表社員 徳永 達彦
神崎建設工業(株) 代表取締役社長 神崎 雄一郎
- 19:15 塾長愛唱歌「ふるさと」唱和／黙禱
< 休 憩 >
- 19:30 懇談会開会挨拶・献杯
木村産業(株) 代表取締役社長 木村 健一
 - ◇ 来賓紹介
 - ◇ 新入塾生の紹介
 - ◇ 機関紙マラソン第4グループからの経過報告
 - ◇ 「RITA ネットワーク」のご紹介
 - ◇ DVD 視聴
「稲盛哲学 学びと気づきのメモリアル」<40分>
 - ◇ 盛和塾の歩みを振り返る
- 21:25 閉会挨拶
RITA JUKU MIYAZAKI 代表世話人 小川 裕介

京セラ創業者稲盛和夫氏が死去

KDDI 誕生などに尽力

2022 年 8 月 30 日

京セラは、同社創業者であり名誉会長の稲盛和夫氏が、8 月 24 日、老衰のため京都市内の自宅で逝去したことを発表した。享年 90 歳。



稲盛 和夫氏

さまざまな功績を築いた稲盛氏は、現在の日本の通信サービス、ひいては携帯電話サービス市場を作り上げた第一人者でもある。

1932 年に鹿児島市で生まれ、1955 年に鹿児島大学工学部を卒業。1959 年 4 月に京都セラミック(現京セラ)を設立し、1997 年から取締役名誉会長を務めた。

1984 年には、電気通信事業の自由化に即応して、KDDI の前身会社のひとつ第二電電企画(のちの DDI)を設立。2000 年 10 月に DDI と KDD、IDO の合併によりディーディーアイ(現 KDDI)を設立し、取締役名誉会長に就任、2001 年 6 月に最高顧問に就任した。

携帯業界以外では、2010 年 2 月に日本航空(JAL)会長に就任し JAL 再建に尽力。2015 年 4 月に名誉顧問となった。また、経営者の育成を図る経営塾「盛和塾」の塾長や、稲盛財団の設立などに携わった。

稲盛氏逝去について、KDDI はコメントを発表。

代表取締役会長 田中 孝司氏は、2000 年の 3 社合併について「稲盛 和夫最高顧問の『真に国民のための通信サービスを提供しよう』という新たな大きな志が導いたもの」とコメント。

代表取締役社長 高橋 誠氏も「稲盛 氏の遺志を継承する全社員が一丸となって、『豊かなコミュニケーション社会の発展に貢献』できるよう、邁進していく」としている。

「父のよう」「教え感謝」

県内経済界も悲しみの声

稲盛和夫さん死去

京セラ名誉会長の稲盛和夫さんの訃報を受け、県内経済界にも悲しみの声が上がった。盛和塾の県支部として1994年に発足し、稲盛氏の理念を学んできた「盛和塾宮崎」。2019年の盛和塾解散を受け、翌20年には「RITA JUKU MIYAZAKI」（38人）が設立された。

特に感銘を受けたのは「全従業員のもの両面の幸せを願う」という言葉。そのフイロソフイは人生の核心を捉えているとし、今も車で移動中は講演CDを流す。「これからも多くの学びを頂戴したいと考えていただけに悲しみに堪えない。多大な貢献と功績に改めて感謝したい」

盛和塾宮崎を立ち上げる主要メンバーだった九南（都城市）の安田耕一（会長78）も「いつかはこんな日が来ると覚悟していたが、寂しい。あれだけの実績を上げられたのに、偉ぶる」との全くない人だった」と振り返る。稲盛さんから「努力をしているか。まだまだ足りない。経営者は社員の数倍頑張らなければならぬ」と叱咤激励を受けた時、背筋が伸びる思いがしたという。「常に謙虚であること、社員を大事にするこの大切さを教わり、鍛えてもらったおかげで今の私がある」とかけがえのない師の死を悼んだ。

親子2代で稲盛さんが唱えた「利他の心」を経営理念としてきた神崎建設工業（宮崎市）。13年には「盛和塾」の稲盛経営者賞1位に選ばれ、義世会長（80）と

共に表彰式の壇上上がった雄一郎社長（50）は「会社が成長、発展できたのは利他の心を経営の根幹に置い

卓越したリーダー 産業界

稲盛和夫さんの死去を受け、経営危機に陥った日本航空の再建や現KDDIの発足を手がけた功績に敬意を表す声が産業界から上がった。日本航空は「卓越したリーダーシップによって構造改革と意識改革を進めた」とのコメントを発表。

KDDIの田中孝司会長は稲盛さんの「真に国民のための通信サービスを提供しようという大きな志が導いたものだ」と評した。「人間として何が正しいか」を座標軸に据えた経営哲学の教えを受けたことは「かけがえない財産だ」とも語った。

稲盛さんは2010年、巨額の債務を抱えて経営破綻した日本航空の会長に就任。共通の価値観の醸成やコスト意識の浸透を図り、業績を立て直した。日本航空は「多大な貢献と功績に感謝申し上げる」と述べた。

稲盛さんが創業した第二電電企画は、後に国際通信最大手KDDIなどと合併し、KDDIが誕生した。

京セラと同じ京都府に本社を構える企業からも悼む声が続いた。任天堂は「伝統産業と先端技術が交わりながら成長してきた京都経済をけん引する旗手のような存在だった」とコメント。村田製作所の村田恒夫会長は「京都を代表する企業経営者としての活躍にとどまらず、さまざまな文化・技術の発展にも貢献した」と述べた。

稲盛和夫「なぜ経営に哲学が必要か」

2017年2月20日 盛和塾「尾張」開塾式 塾長講話

1. 経営はトップの考え方で決まる

◇心を高める、経営を伸ばす: 経営者の哲学と会社の業績はパラレルの関係であり、経営を伸ばそうと思うならば、**まずは経営者自身の心、精神性を高めなければならない**。経営者の持っている考え方によって、経営のすべてが決まってしまう。「もっと楽をしたい、怠けたい」という深層心理、考え方が、会社の業績を左右することになる。

◇「人間として何が正しいのか」ということを判断基準にする: 子供の頃に両親や学校の先生から教えてもらった「やっ
ていいこと、悪いこと」というプリミティブな倫理観をベースに経営を進める。

2. 誰にも負けない努力をする

◇「誰にも負けない努力をする」は経営者になるにあたっての前提条件。**どんな不況に遭遇しようとも、どんな厳しい環境が襲ってこようとも、人一倍努力していくことが、経営者としても人間としても最低条件**。その際、ただ一生懸命努力するというだけでなく、「誰にも負けない」努力が必要。一生懸命に働くということ以上の経営ノウハウはない。

3. 慎重堅実な経営を行う

◇真の経営者は小心者でなければならない: 小心者が場数を踏むことで、自分を鍛え、人間性を高め、真の経営者に成長していく。

◇大胆さと細心さを合わせ持つ: 常に大胆であってもいけないし、いつも細心で小心であってもいけない。また、その真ん中であればいいというものでもない。**その両極端を兼ね備えていなければならない**。・・・「第一級の知性とは、両極端の考え方を同時に合わせ持ち、かつ、それを正常に機能させることのできる人間である。」(スコット・フィッツジェラルド)

4. 新しいことに挑戦する

◇常に**変革と創造を行う**: 異分野への進出も含め、「新しいことに挑戦する」「常に創造的な仕事をする」ことが求められる。現状に甘んずるということは、**すでに退歩が始まっていることを意味する**。

◇経営者が変化を恐れ、挑戦するマインドを失ってしまったら、その集団はやがて**衰退の道**を歩み始めることになる。経営者が現状に満足することなく、常に**変革と創造を行う**ことができるかどうか、集団の運命を左右する。

◇かつて成功したビジネスモデルに固執し、**新しい事業展開**をすることに二の足を踏んでいないか。創業当社は経営者のトップダウンで迅速に行われていた意思決定が、**リスクを恐れるあまり決断が遅くなり、大きなビジネスチャンスを逃すようなことになっていないか**。もし、そのような傾向が少しでもあるとすれば、すぐに是正していかなければならない。

◇能力を**未来進行形**でとらえる: 自分の持つ能力を現時点で判断するのではなく、**今から磨き上げる**ことによって、それは限りなく**進歩するものであると信じる**。努力し、一生懸命チャレンジすることによって、人間の可能性は無限に発展していくのだということを信じるべき。

◇**楽観的に構想し、悲観的に計画し、楽観的に実行する**: 「これはできる」「これはやれる」と楽観的に構想を練る。→構想段階で簡単に考えたことを、もっと悲観的に、そして綿密かつ緻密に練っていく。→そして実行する段階になったら、また楽観的に「いや、これはできるはずだ」と言って実行する。**(情熱人材→冷徹人材→情熱人材)**

5. 謙虚にして驕らず、さらに努力を

◇現在は過去の努力の結果、将来は**今後の努力**で: 会社を高収益のまま維持していこうと思えば、**その高度まで上がってきた時と同じだけの努力を今後も続けていかなければならない**。それは言わば「誰にも負けない努力をする」という経営者としての原点に立ち返るということを意味している。

◇心を高める: 同時に、企業の繁栄を持続させるためには、**経営者自身が「心を高める」努力を怠らない**ことが重要。

◇常に**反省のある日々を送る**: フィロソフィを体得できるかできないかではなく、そのようにありたいと願い、折に触れて反省し、何とか体得しようと努力し続けることこそが大切。経営者自身が心を高め、純粹で美しい心になろうと懸命に務めることで、従業員も「この人のためならば」と思ってくれ、共に社業の発展に尽くしてくれるようになるはず。

MEMO

A large rectangular area enclosed by a solid black border, containing 30 horizontal dotted lines for writing.

高い目標を持つ



京都市中京区西ノ京原町というところで創業した京セラですが、その頃から、数少ない従業員を前にして、私はよくこう言っていました。

「今に京セラをこの原町一の会社にするのだ。原町一になったら次は中京区一に、中京区一になったら京都一に、京都一になったら今度は日本一にする。そして、日本一になったら次は世界一だ」。

今はちっぽけな会社にすぎないが、京セラをいつかは世界の京セラに、という自らの夢を繰り返し語ったのです。

高い目標を設定する人には大きな成功が得られ、低い目標しか持たない人にはそれなりの結果しか得られません。自ら大きな目標を設定すれば、そこに向かってエネルギーを集中させることができ、それが成功の鍵となるのです。

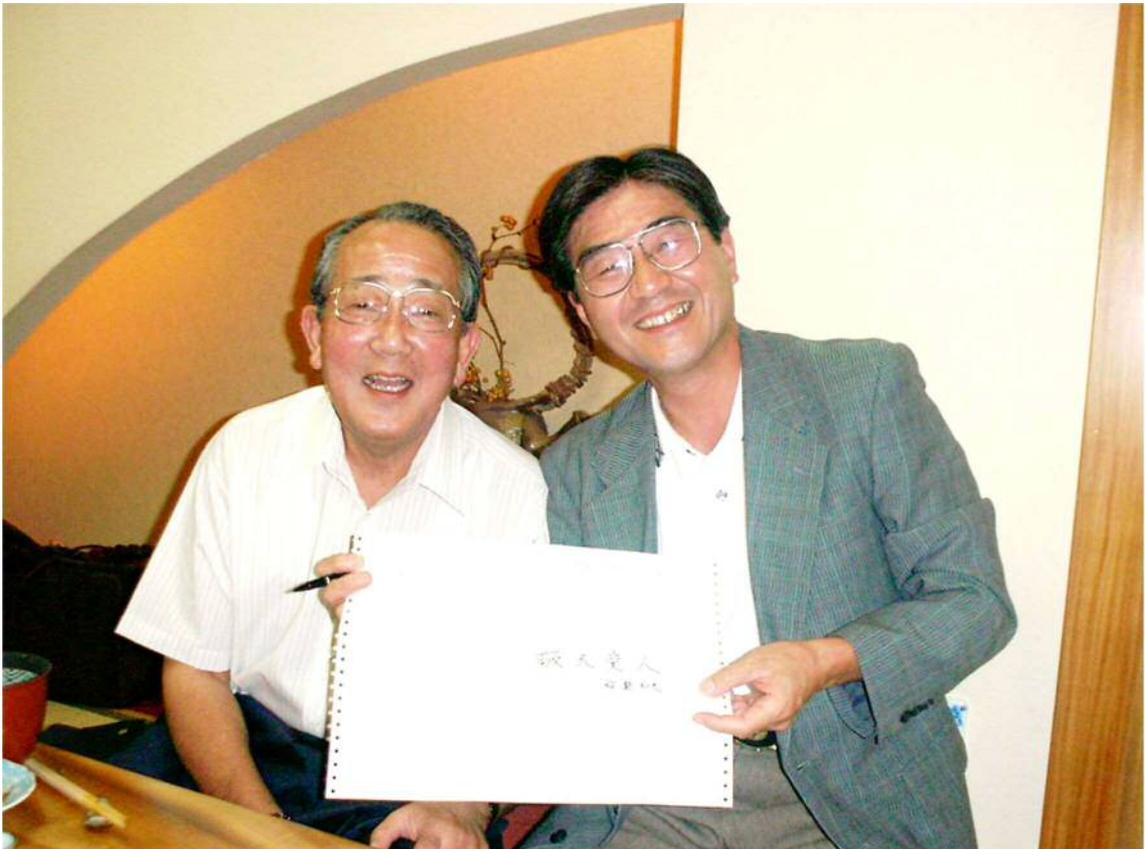












RITA JUKU MIYAZAKI 9月例会 出席者

<氏名50音順>

	NO	氏名	会社名	役職名	例会	懇談会	備考
え	1	江夏 祥一郎	江夏石油(株)	代表取締役社長	○	○	
	2	江夏 拓三	霧島ホールディングス(株)	代表取締役専務	○	○	
お	3	小川 裕介	(株)新海屋	代表取締役	○	○	
か	4	神崎 雄一郎	神崎建設工業(株)	代表取締役社長	○	○	
き	5	木村 健一	木村産業(株)	代表取締役社長	○	○	
く	6	黒川 浩之	(株)九南	代表取締役社長	○	○	
	7	児玉 明彦	大和物産(株)	塾生企業役職員	○	×	
こ	8	児玉 寛太郎	大和物産(株)	代表取締役社長	○	○	
	9	坂元 丞	霧島燃料(株)	代表取締役	○	○	例会遅れて参加
さ	10	椎葉 数恵	ローゼ	代表	○	○	
し	11	田内 幸司	(株)セタックホールディングス	代表取締役	○	○	新塾生
た	12	津曲 慎哉	えびの電子工業(株)	代表取締役社長	○	×	
つ	13	寺師 博文	インフラテック(株)宮崎営業所	執行役員第二営業部部長	○	○	
て	14	徳永 達彦	合名会社 徳永商店	代表社員	○	○	
	15	富吉 健一	霧島ホールディングス(株)	経営計画室部長	○	×	
と	16	中武 晋之介	BTV(株)	塾生企業役職員	○	△	収録(弁当手配)
	17	中村 吉寛	(有)都城金海堂	代表取締役社長	○	○	
な	18	中山 由紀	(株)プラスドソレイユ	代表	○	○	
	19	西田 俊明	(株)アルファ	代表取締役	○	○	
に	20	根岸 裕孝	宮崎大学地域資源創成学部	教授	○	○	
	21	野村 昌宏	BTV(株)	塾生企業役職員	○	○	
ね	22	橋口 徹	大和証券(株)宮崎支店	支店長	○	○	新塾生
	23	原田 祐一	(有)原田	代表取締役	○	○	
の	24	樋口 由香	宮崎日日新聞社	経済部長	○	○	
	25	福岡 実恵	日本航空(株)宮崎支店	支店長	○	○	新塾生
は	26	福田 保	(株)九州ガードシステム	代表	○	○	
	27	藤川 寿治	宮崎県防犯協会連合会	専務理事	○	○	
み	28	宮原 玲奈	BTV(株)	塾生企業役職員	○	○	司会
	29	靱木 寛明	靱巧房	代表	○	○	
も	30	森 文一郎	宮崎日伊協会	専務理事	○	○	
	31	森川 護	BTV(株)	社長室長	○	○	
や	32	森山 福一	(一財)宮崎県建築住宅センター	理事長	○	○	機関紙マラソンリーダー
	33	安富 健二	BTV(株)	地域統括プロデューサー	○	○	
	34	谷田 貝孝	宮崎大学地域資源創成学部	教授	○	○	

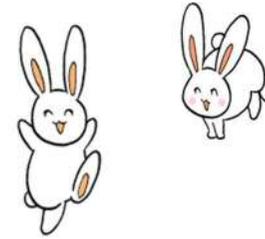
出席者数

34 30

心を高める、経営を伸ばす

困難に打ち勝つために：希望を失わない

今でこそ私は、「心で思った通りに現象は現われる」と信じているのですが、社会人となった頃は、やることなすことうまくいかず、とてもそのようには考えられませんでした。しかし、そんな苦しい中でも私は明るさと希望だけは失いませんでした。そのころ私は、床が抜けそうなオンボロ寮の二階に住んでいました。畳の表も裏もなく、わらがぼうぼうとむき出しの六畳間でした。そこに七輪と鍋を持って来て、毎日自分で炊事をしていました。会社での研究も人間関係もうまくいかず、日が暮れると寮の裏の桜並木が続く小川へ一人で出かけていきました。そして、小川のほとりに腰かけて、唱歌の「ふるさと」をよく歌ったものでした。心の痛みが積もり積もって、どうにもならなかったのです。私は思いきり歌うことで、自分を元気づけていたのです。そして気分を一新して、次の日にはまた会社へ出かけて懸命に働きました。悩みは、いつでも、誰にでも、どこにもあります。しかし、そういう状況の中でも、気分転換を図り、明日への希望と明るさだけは失わないようにしなければなりません。



故郷（ふるさと）

兎（うさぎ）追いし かの山

小鮒（こぶな）釣りし かの川

夢は今も めぐりて

忘れがたき 故郷（ふるさと）

如何（いか）に在（い）ます 父母

恙（つつが）なしや 友がき

雨に風につけても

思い出（い）ずる 故郷

志（こころざし）を はたして

いつの日にか 帰らん

山は青き 故郷

水は清き 故郷